

大学生のAD/HD的行動特徴と過去および現在の 養育態度認知との関連

—男女差に着目して—

○伊藤李歩¹・山本真由美²

(¹徳島大学大学院総合科学教育部臨床心理学専攻・²徳島大学大学院総合科学研究部)

問題と目的

近年、AD/HD的行動特徴をもつ幼児は親から否定的な養育態度を受けていることが明らかになっているが(松岡ら, 2011; 眞野ら, 2007), 大学生のAD/HD的行動特徴と親の養育態度認知の関連については明らかにされていない。

そこで本研究は、大学生のAD/HD的行動特徴と過去および現在の養育態度認知の関連について検討した。

方法

- ・調査協力者：A大学に在籍している165名。
有効回答率91.8% (男性94名, 女性71名)
- ・調査手続き：質問紙調査を実施。
- ・質問紙構成
 - ①現在の養育態度認知：「青年期養育尺度(PAS)」
 - ②過去の養育態度認知：「PBI日本語版」
 - ③AD/HD的行動特徴：「Adult ADHD Self-Report Scale-V1.1 (ASRS-V1.1)」
 - ⑤フェイスシート(性別, 学年, 学部, 年齢)

結果

1. 男女差について

Mann-WhitneyのU検定を行った結果、養護尺度、モニタリング尺度、受容尺度、AD/HD的行動特徴尺度において有意差がみられた($p < .05$)ため、後の検定は男女別に行った。

2. 男子大学生(N=94)のAD/HD的行動特徴と各尺度間との関連(Table1)

結果はTable1に示す通りである。

Table1 男子大学生のAD/HD的行動特徴と各尺度間の相関係数

	過去の養育態度(PBI)		現在の養育態度(PAS)		
	養護	過保護	受容	心理的統制	モニタリング
AD/HD的行動特徴	-0.18	.292*	.227*	.053	.183

**は1%水準で有意(片側) *は1%水準で有意(両側)

3. 女子大学生(N=71)のAD/HD的行動特徴と各尺度間との関連(Table2)

結果はTable2に示す通りである。

Table2 女子大学生のAD/HD的行動特徴と各尺度間の相関係数

	過去の養育態度(PBI)		現在の養育態度(PAS)		
	養護	過保護	受容	心理的統制	モニタリング
AD/HD的行動特徴	-.357*	.207	-.247*	.402**	-.156

**は1%水準で有意(片側) *は1%水準で有意(両側)

考察

Table1より、AD/HD的行動特徴が高い男子大学生ほど、過去に過保護的な養育態度を受けており、現在は受容的な養育態度を受けているという見方を有していることが明らかとなった。大学生はそれ以前の時期に比べて、物理的・心理的にも親との距離が離れる。したがって、AD/HD的行動特徴をもつ男子大学生は、青年期まで過保護的な養育態度を受けているという見方をしていたが、大学に入学し、物理的・心理的に親との距離が離れたことで、受容的な養育態度を受けているという見方に変ったのではないかと、あるいは、子どもとのそれらの距離が離れたことで、実際に母親の養育態度が過保護的から受容的に変化したのではないかと考えられる。

一方、AD/HD的行動特徴が高い女子大学生ほど過去に非養護的な養育態度を受けており、現在も非受容的な養育態度や心理的な統制を受けているという見方を有していることが明らかとなった(Table2)。これは、今回母親の養育態度のみを検討したということが影響していると考えられる。伊藤(1980)は、父親と母親の娘に果たす役割の相違を挙げており、母親は父親よりも娘の「経済的自律を含む社会参加」に積極的であるということ述べている。したがって、母親はたとえ、物理的・心理的に距離が離れたとしても、AD/HD的行動特徴という困難を抱えた女子大学生が社会参加できるためにより厳格に関わるため、AD/HD的行動特徴をもつ女子大学生は、感情や考えへの介入や操作により子どもの行動を統制しようとしているなどの否定的な養育態度を受けているという見方をしていることが示唆される。